

目指す児童像

思いやりのある
よく考える
明るく元気な
進んではたらく

海道小だより

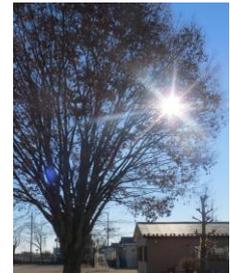
第 8 号

平成30年12月発行
宇都宮市立海道小学校
校長 高島 俊幸

冬の澄み切った空気の中、児童の元気なあいさつが、ひときわ響きます。今日も、海道小児童の一日が始まりました。

地域とともにある学校&学校づくりへの取組

明るく元気、思いやりのある子ども



◇ やきいも・なわとび集会（12月7日）

12月7日、子どもたちが待ちに待っていた「やきいも・なわとび集会」が行われました。海道小の「やきいも・なわとび集会」は、10年以上前から行われている伝統行事です。上級生が下級生の手助けをしたり班をまとめたりすることでリーダー性や主体性が養われます。また、学級対抗の8の字跳びによって、クラスの団結や助け合いが生まれます。ここまで、休み時間などを利用して練習を重ね、技術と心を磨いてきました。

地域ボランティアさんの協力も10年を越え、おいもの焼きあがりも素晴らしいものがありました。子どもたち一人一人が、地域に育てられ、仲間に育てられ、そして、これからもこの海道の地でやさしくたくましく育ってほしいと願っています。



よく考える子ども ～本年度の重点～

◇ 校内授業研究会（最終：12月11日）

本校では、4月から、算数を中心に校内研究を行ってきました。特に、再来年度からの新学習指導要領の全面実施に向け「主体的・対話的な深い学び」を目指し、「児童の関心や意欲を高める課題設定や展開の工夫」「協働的学び合いの充実に向けた工夫」を中心に、授業研究及び授業実践を行っています。11日は、指導助言者として、栃木県教育委員会学校教育課学力向上推進室の星 成雄先生と河内教育事務所学校支援課の大場賢治先生をお迎えし、今年度最後の研究授業を行いました。

1年生の「ひきざん」の学習では、線り下がりのある引き算の学習の後に、「引き算の答えが同じカードを集め、そこからきまりを見付けていく」学習を行いました。子どもたちは、すでに勉強している足し算の学習やカードの並びから気付いたことなどを生かしてどのグループもたくさんのきまりを発見していきました。

5年生の「割合」の学習は、学力調査においても、小中学校共に毎年課題として挙げられる内容です。授業では、次のような課題が出され、個人、グループ、全体と形を変えながら活発な学習が行われました。皆さんも、考えてみてください。

西町と東町の弁当屋では、同じ弁当が同じ定価で売られています。どちらの店も土曜日が特売日で、西町店ではすべての弁当が2割引になり、東町店では350円より高い弁当がすべて350円になります。土曜日に4種類のお弁当を1つずつ買うとき、西町と東町のどちらで買うのが得なのか求めましょう。ちなみに弁当の値段は、さけ弁当（450円）からあげ弁当（430円）のり弁当（320円）コロッケ弁当（380円）です。



よく考える子ども 明るく元気な子ども

◇ 2年生生活科【バスの乗り方教室】

14日に、2年生の生活科の学習で、市交通政策課と関東バスの職員の方をお招きし「バスの乗り方教室」を行いました。（海道小の校内道路に「海道小バス停」が出現しました。）公共のバスに乗る機会の少ない子どもたちですが、バスの乗降方法や運賃の支払い方、車いすの乗車方法などの説明に耳を傾け、真剣に体験学習を行いました。

この学習は、来月実施の「バスに乗って出かけよう」の学習に生かされますが、ご家庭でもぜひ公共交通機関を利用し、子どもたちの社会性や興味関心を高めていただきたいと思います。

